

### 東京都における

### 武道必修化に向けた取組

東京都教育委員会

東京都教育委員会は、平成24年度からの中学校保健体育科における武道・ダンスの必修化に向けて様々な取組を実施してきました。その概要について紹介します。

#### 1 視聴覚教材の作成

生徒が保健体育の授業で武道の楽しさを味わい、主体的に武道に取り組む態度を身に付けさせるために、平成21年度に武道の礼法や基本動作、対人的な技能などの見本やモデルを示した、「スポーツ理解啓発視聴覚教材」(DVD)を制作した。この補助教材を、全公立中学校及び都立学校に配布し、教員の指導や生徒視聴覚学習の一助とした。

#### 2 武道の指導事例集の作成

武道、ダンスの必修化に向けて、東京都教育委員会は、系統的な指導を実現し、教員の資質、能力の向上を図るため、平成22年度に「武道・ダンス・体育理論指導事例集」を作成し、公立中学校、高等学校等の全ての保健体育科教員に配布した。

作成に当たっては、武道では、柔道、剣道、相撲、なぎなたを取り上げ、中学校と高等学校の接続を考慮した。そして、保健体育科

#### 3

#### 外部指導員を活用するモデル事業

武道の指導は、他の運動種目に比べて、より専門的な知識や技能、経験が必要であるため、地域の武道団体の有段者など、外部の武道専門家の力を活用することは、有効な方法である。しかし、日程調整や事前打ち合わせ等、地域の武道団体や外部指導員との連携の仕方や進め方などについて課題があった。

そこで、平成22、23年度に地域の武道専門家などの外部指導員を活用するモデル事業を実施し、連携の進め方などについて、実践校において研究を行った。モデル事業を実践した学校は、平成

#### 4

#### 武道の安全指導のための技術委員会

(1)技術委員会の設置  
平成24年度からの武道必修化を目前に控え、新聞報道等で柔道の安全性を危惧する声が強くなってきた。そこで、柔道に内在する危険性を分析し、安全指導の徹底を図る実技講習会を実施するために、公立学校の校長、副校長、教員及び指導主事行政関係者等、教科指導における柔道の専門家で構成する「武道の安全指導のための技術委員会(柔道)」(以下、「技術委員会」という。)を設置した。

(2)リーフレットの作成  
技術委員会では、過去の重大事故から柔道に内在する危険性を分析し、投げ技や固め技の特徴、柔道の授業を安全に行うためのポイントをまとめ、「安全で効果的な武道の授業―柔道―」としてリーフレットを作成し、公立中学校・

##### 【スモールステップによる安全指導の展開例】

- ①受け身の要素を知る (たたく、ゆっくり回転する、体を緊張させる)。
- ②転がる感覚を身に付ける (2人1組で転がる練習をする、だるまころがしなど)。
- ③2人1組で受け身をとる (後方にゆっくり転がしながら受け身を行う)。
- ④崩しを使って投げる (2人1組で八方向に崩して受け身をとる)。
- ⑤基本動作を使って投げる (2人1組で前さばき、後ろさばき、前回りさばきを使って受け身をとる)。
- ⑥基本の技を使って投げる。

## 安全な柔道指導と指導計画の在り方について

はじめに

専門外の指導者の不安

- 授業のイメージがつかめない。
- 安全面が心配である。
- 技を教えられない。

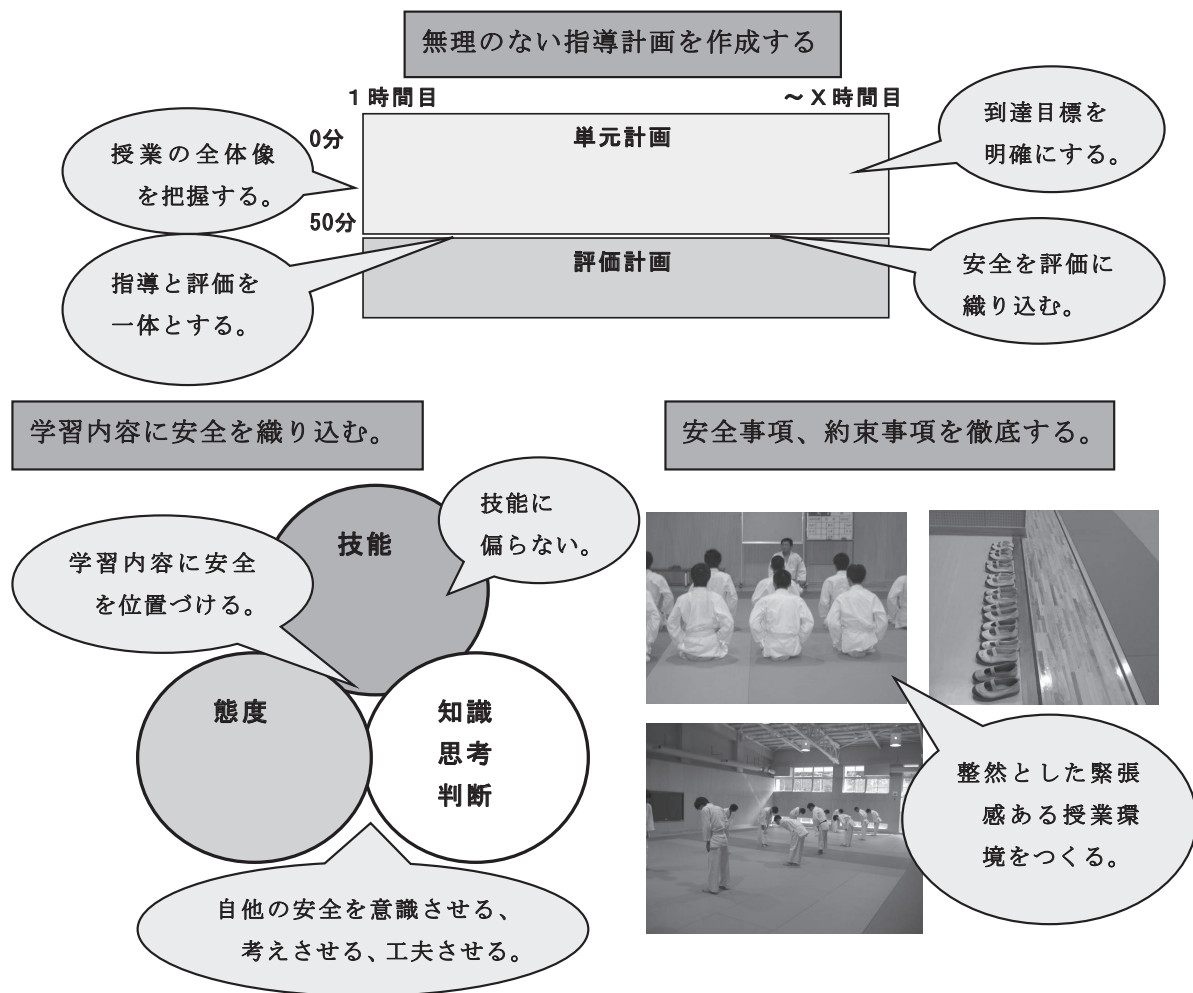
発想の転換

- 無理のない指導計画を作成する。
- 学習内容に安全を織り込む
- 技にこだわらない。○生徒に考えさせる。

### 1 柔道の学習指導の基本的な考え方

- 武道（柔道）の良さを伝える。「精力善用」「自他共栄」
- 柔道の楽しさを体験させる。
- 学習内容を精選して、無理のないゆとりある指導を心掛ける。

### 2 安全な柔道指導のポイント



## 5

### 指導力向上のための実技講習会

平成24年11月には、武道の指導経験が浅い教員を対象として、柔道、剣道、相撲について、実技講習

会を実施した。柔道では、東京学芸大学教授手矢岬先生、剣道では、流通経済大学准教授柴田

- ①初期の段階から2人1組で受け身の練習をする。
- ②受け身から対人的技能を一体化して、スモールステップで投げ技まで導く。
- ③技の系統性を重視する。

を重要なポイントとして、基本動作、受け身、投げ技を関連付けた内容とした。



安全指導の講習会の様子



指導力向上のための講習会の様子

一浩先生、相撲では、日本体育大学准教授齊藤一雄先生を講師として招聘し、2日間にわたり、授業での実践例に基づき、礼法などの伝統的な行動の仕方や基本動作・対人的技能等についてわかりやすく丁寧に解説していただき、指導力向上を図る上で、実りの多い講習となった。

今後、東京都教育委員会は、安全面に配慮しながら、これまでの取組を活かした施策を展開して、教員の指導力の向上や授業改善を図り、より一層武道必修化の目的が達成できるよう、武道指導の充実を目指していく。

## 6

### おわりに

高等学校全保健体育科教員に配布した。

(3)武道の安全指導のための実技講習会

技術委員会は、武道の安全指導のための実技講習会（以下、「実技講習会」という。）を計画し、平成24年5月から8月にかけて、公立中学校保健体育科教員を対象に11地区で実施した。実技講習会は、

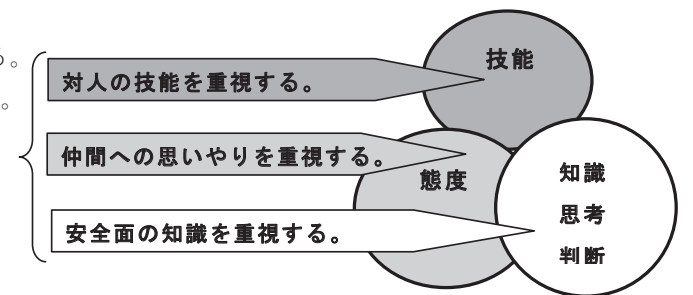


○無理のない指導計画を作成する。

- 何時間で何を学ばせるか（配当時間と学習内容）⇒到達目標を明確にする。
- ⇒初歩から10時間以内の単元計画の技能の到達目標の目安
  - ・対人で、礼法、受け身（後ろ受け身、横受け身）、基本動作ができる。
  - ・投げ技を扱う場合、技数は1～3程度で約束練習までとする。
  - ・抑え技を扱う場合、技数は1～3程度で自由練習や簡易な試合も可能である。
- 技能中心に陥らない⇒学習内容（○技能、○態度、○知識、思考・判断）のバランスを考える。
- 指導と評価を整える⇒単元計画と評価計画を一体化する。安全を評価に織り込む。

○学習内容に安全を織り込む。

- 始めから2人1組で練習させる。
- 受け身と技を一体として教える。
- 相手を思いやる態度を育む。
- 自他の安全に配慮させる。
- 安全面の知識を多く与える。

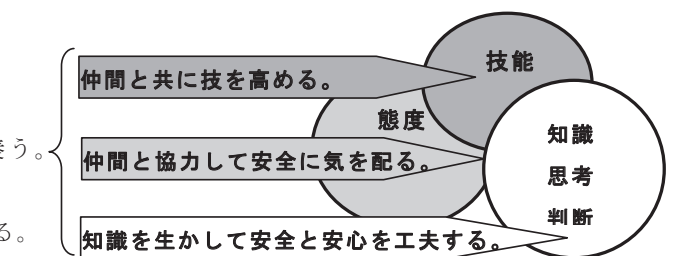


・技にこだわらない。

- 技は安全面に留意しておおまかに教え、生徒が工夫する余地を残す。
- 技は系統別にまとめて扱う。

・生徒に考えさせる

- 仲間と共に技を身に付ける。
- 自他の安全を確保する態度を養う。
- 安全の知識を生かして工夫させる。



○安全事項、約束事項を徹底する。

- 事前の安全点検
  - ・指導計画の点検、活動場所の安全点検、安全指導の知識と体験、事故対応の備え
- 授業中の約束事項と安全事項の点検
  - ・健康状況や既往症の点検、授業規律と約束事項の徹底、適切な準備運動（受け身など）
  - ・人数の配置、安全なスペースの確保、体格、体力差、習熟度を考慮したグルーピング
  - ・事故やケガにつながる危険な状態への気付き（技別、状況別）
  - ・指導者の立ち位置、危険を察知したら、すぐに全体の動きを止めて指導する勇気
- 事後の安全点検
  - ・健康観察と適切な整理運動
  - ・安全面の授業評価と次の授業へのフィードバック

# 武士や幕末志士を育てた

## 藩校・私塾の教育の実態に迫る

江戸を生きた武士や、幕末、時代を動かした志士と呼ばれる青年たちは、どのような教育を受けて自己形成をしたのか。彼らの精神を培った各地の個性的な土風を持った藩校や、武士と庶民がともに学んだ私塾の、教育理念や思想を詳説。文武両道の教育、規律、師弟関係など、現代教育が失った人間形成のための学びの場が見えてくる、教育関係者・武道指導者必読の一冊。

好評発売中

同志社大学教授  
沖田行司 著

# 藩校・私塾の思想と教育

### 序章 江戸の教育―藩校と私塾

#### 第一部 武士の教育

- 第一章 近世武士道の原点
  - 造士館（薩摩藩）
  - 時習館（肥後熊本藩）
  - 日新館（会津藩）
- 第二章 名君の教育と政治
  - 花鳥教場・閑谷学校（岡山藩）
  - 修猷館・甘棠館（福岡藩）
  - 興讓館（米沢藩）
- 第三章 海外交流と武士の教育
  - 養賢堂（仙台藩）

- 小学校・思文館（対馬藩）
- 弘道館（佐賀藩）
- 第四章 歴史を動かした教育
  - 致道館（土佐藩）
  - 弘道館（水戸藩）
  - 明倫館（長州藩）
  - 昌平坂学問所（徳川幕府）

#### 第二部 私塾の教育

- 第一章 学問と教育の普及
  - 藤樹書院（中江藤樹）
  - 懷徳堂
- 第二章 町人の自律と学び

### 終章 日本の教育とその再生

―敗戦の記憶は克服できるか

四六判・上製・374頁  
定価2520円(本体2400円+税)



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課  
までどうぞ！

TEL03(3216)5147  
FAX03(3216)5158